



絆 きずな



令和7年 10月1日発行

スポーツの秋、芸術の秋、文化の秋…。今月は球技大会があります。学校行事ではありませんが、ハロウィンも世の中が盛り上がる行事の一つですね。仮装やパーティをする行事のように思われやすいですが、起源は、秋の収穫を祝い、悪霊を追い払う宗教的な行事です。興味ある人は調べてみてくださいね。



心に残った言葉

「鳥の目・虫の目・魚の目」

長谷川 博 先生

これは、先輩の先生が話されたもので、自分も大切にしています。

「鳥の目」は、高い位置から全体を俯瞰的に見渡し、大局を把握する視点です。「虫の目」は、目の前にある対象に近づき、細部を多角的に捉える視点です。

「魚の目」は、水の流れや潮目を感じ取る魚のように、時代や社会の大きな流れを読み解く動的な視点です。

鳥のように全体を見渡し、虫のように細部を注視し、魚のように能動的に観察していくことで、それまで見えてこなかったものも見えるようになるかもしれません。難題にぶつかったとき、いったん心を白紙にして、全体から見渡してみたり、細部にこだわったり、時には、流れにそって自然体で考えてみたりすることで、解答にたどり着くこともできるはず。さまざまな視点から物事を見ればきっと視界が開けてきます。

「結びつこうとする力は、分かつ力よりも強いのだ。そう信じたい。」

上野 歩『就職先はねじ屋です』(小学館文庫)より

渡辺 均 先生

この作品はいわゆる「お仕事小説」です。日本のものづくりの現場である町工場のことがていねいに書かれていて、本を読む楽しさというのは、作者の表現力の豊かさを味わうことでもあるのだとつくづく感じました。取り上げた言葉は、主人公が新しいねじ作りに取り組む中で出てくるものです。ここでの「力」とは、もちろんねじに関わる物理的な力のことですが、そうした本来の意味を超えて、私たちのような人と人との間にも通じるものがあるのではないかと感じました。社会の分断ということがいわれる今日、あらためて考えてみたい言葉ではないかと思います。



スクールカウンセラーについて

みなさんの悩みを相談できる機会を設けています。場所は南舎1階の「ほっとプレイス(教育相談室)」です。

※予約制です。担任または相談室に気軽に声をかけてください。

【今後の予定】

10月24日(金) 15:20~18:20

11月25日(火) 16:20~18:20